

## 産婦人科臨床研修プログラム

### 【指導医】

奈良井 曜子（産婦人科部長）：日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医・指導医、女性ヘルスケア暫定指導医、NCPRインストラクター、母体保護法指定医、緩和ケア研修会修了

坪倉かおり（産婦人科医長）：日本産科婦人科学会産婦人科専門医、女性ヘルスケア専門医、母体保護法指定医、緩和ケア研修終了

佐藤 絵美（産婦人科医長）：日本産科婦人科学会産婦人科専門医母体保護法指定医、緩和ケア研修終了

### 【上級医】田中 綾子、宮本 純子

### 【期間】：4 週

### 【一般目標 GIO】

妊産褥婦および婦人科疾患を有する患者に対し適切に初期対応を行うために、女性診療の特性を理解・配慮し、基本的知識と基本的技術を修得する。

2年次（2回目ローテーション）は正常分娩に加え帝王切開の術者としてより深く分娩に関わる。経験症例の発表を院内外で行う。

### 【行動目標 SB0 s】

1. 妊娠初期、周産期における母児の生理と病理を理解し、診療に実践できる。
2. 産科合併症を列挙できる。
3. 適切な産婦人科診療を実施するのに必要な技能を身につけ、指導医・上級医のもとで実施できる。
4. 女性診療を行うにあたって患者及びその家族に配慮することができる。
5. 母児の管理の特性を理解し、他科医師、助産師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどと協力して患者のケアを行い、チーム医療を実施できる。
6. 婦人科領域の主要疾患の病態と診断を理解し、治療方針を立てることができる。
7. 産婦人科救急（急性腹症）について理解し、初期対応ができる。
8. 排卵・月経周期のメカニズムを理解し、女性の特徴を知ることができる。
9. 排卵障害や月経異常とその検査、治療法を列挙できる。
10. 思春期、性成熟期、更年期、老年期など生涯にわたる女性のヘルスケアの重要性を理解する。
11. 以下の症状・病態・疾患・検査・基本手技を経験できる。

（ア） 症状・病態：腹痛、性器出血、嘔気、嘔吐、過多月経、月経困難、貧血

（イ） 疾患：重症妊娠悪阻、切迫流産・早産、異所性妊娠、卵巣腫瘍、婦人科癌、性行為感染症

（ウ） 検査：検尿、血液生化学検査、細菌学的検査、検体採取（尿、血液）、超音波検査、胎児心拍モニタリング、単純 X 線検査、Martius-Guthmann 検査、子宮卵管造影、CT、骨盤 MRI、FDG-PET

（エ） 基本手技：採血、注射法（点滴、静脈確保）、ドレーン・チューブ類の管理、皮膚縫合、創処置、自己血貯血、新生児蘇生

## 【方略】

- On-the-job training
- 受け持ち患者数：3-5 名程度
- 研修の場：母性病棟、手術室、救急外来
- 手術研修
  - (ア) 手術助手として参加し、皮膚縫合などを経験する。
  - (イ) 腹腔鏡手術のスコピストとして参加し、骨盤内の解剖を実体験する。
  - (ウ) 2年次（2回目ローテーション）は帝王切開の執刀を行う。
- 病棟研修
  - (ア) 担当医として入院患者の診察を行い、病歴聴取、身体所見をとる。
  - (イ) 周術期管理を行う。
  - (ウ) 産褥期管理を行う。
  - (エ) 母体急変時の診断・管理を指導医・上級医師とともに経験する。
  - (オ) 2年次（2回目ローテーション）は産後の退院診察を行う。
- 分娩研修
  - (ア) 分娩に立ち会う。夜間オンコールを指導医・上級医とともに経験する。
  - (イ) 新生児蘇生を行う。
  - (ウ) 分娩・産褥期の異常を指導医・上級医とともに経験する。
  - (エ) 2年次（2回目ローテーション）は会陰縫合を上級医と行う。
- 救急外来研修
  - (ア) 救急患者を指導医・上級医とともに診療する。
  - (イ) 経腹・経膈エコー、内診を経験する。
- 外来研修
  - 外来で問診を聴取・病歴を記載し、診察に立ち会う。
  - 2年次（2回目ローテーション）産後健診（1か月）で行う。
- カンファレンス
  - 毎朝 8：30ー病棟カンファレンス 入院患者の情報を共有する
  - 毎火曜日 8：30ー術前カンファレンス（4階医療支援室）  
待機手術予定患者の術前評価・治療方針について議論する。
  - 毎金曜日 8：30ー週末にむけて全入院患者について医師間での情報交換・共有を行う。
  - 第1水曜日 16：30ー周産期カンファレンス（小児科・病棟合同）
  - 第4火曜日 16：00 ハイリスク妊産婦カンファレンス（精神科・保健師合同）
- 抄読会
  - 水曜日 抄読会に参加し最新情報を学ぶ。
  - 最終水曜日 興味ある症例・案件などについて発表を行い、婦人科臨床研修指導医が聞き評価する
- ガイドライン勉強会
  - 木曜日 ガイドラインの読み合わせに参加する。

【週間スケジュール】

|           | 月       | 火                  | 水              | 木                    | 金                 |
|-----------|---------|--------------------|----------------|----------------------|-------------------|
| 8:30-9:00 | カンファレンス | カンファレンス<br>術前症例検討会 | カンファレンス<br>抄読会 | カンファレンス<br>ガイドライン勉強会 | カンファレンス<br>週末申し送り |
| 午前        | 病棟業務/外来 | 病棟業務/外来            | 病棟業務/外来        | 病棟業務/外来              | 病棟業務/外来           |
| 午後        | 手術または病棟 | 手術または病棟            | 手術または病棟        | 手術または病棟              | 手術または病棟           |

\*火 8:15-

【評価 Ev】

1. 研修医による評価

- (ア) 自己評価：PG-EPOCを用いて自己評価を行う。
- (イ) プログラム評価：PG-EPOCを用いて診療科（指導内容・研修環境）の評価を行う。
- (ウ) 指導医の評価：評価票を用いて指導医・上級医の評価を行う。
- (エ) 指導者の評価：評価票を用いて主として患者が入院している病棟で指導者に任命されている助産師、病棟担当薬剤師の評価を行う。

2. 指導医による評価

- (ア) 研修医の評価：PG-EPOCを用いて行う。
- (イ) 自己評価：評価票を用いて自己評価を行う。
- (ウ) プログラム評価：評価票を用いて産婦人科のプログラムの評価、病院全体のプログラムの評価を行う。
- (エ) 指導者の評価：評価票を用いて病棟で指導者に任命されている助産師、病棟担当薬剤師の評価を行う。

3. 指導者による評価

- (ア) 研修医の評価：評価票を用いて行う。
- (イ) 自己評価：評価票を用いて自己評価を行う。
- (ウ) 指導医の評価：評価票を用いて自己評価を行う。